



文化財保護センターだより

第26号

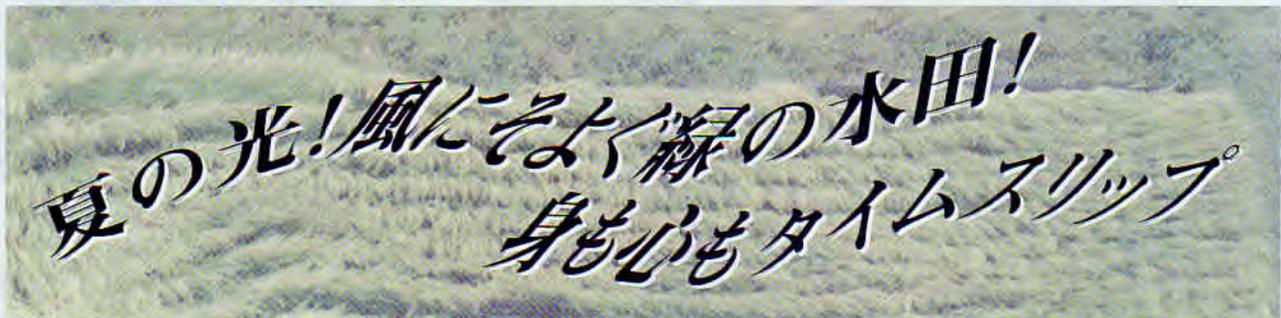
平成11年11月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

三田洞本部・整理所 〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1
 TEL 058-237-8550(代) FAX 058-237-8551
 飛騨出張所 〒509-4122 岐阜県吉城郡国府町名張字峠1425-1
 TEL 0577-72-4784 FAX 0577-72-4690

●もくじ

| | | | |
|-----|--------------------------------------|------|----------------|
| 表紙 | 夏の光! 風にそよぐ緑の水田! 身も心もタイムスリップ……………1 | 調査 | 発掘現場だより……………67 |
| 行事 | タイムスリップ探検隊の一日発掘体験……………33 | アラカト | 尖った底の謎……………8 |
| たより | 未来の考古学者が続々と誕生!……………45 | ご案内 | 発掘速報展……………8 |
| | | 編集後記 | ……………8 |



(財)岐阜県文化財保護センターが、教育普及活動の一環として行っている「タイムスリップ探検隊」も8回目を迎えました。今回は、可児市の柿田遺跡において8月5日に実施しました。夏休みの真っただ中、小学5・6年生と保護者あわせて、23家族48名の探検隊員が発掘体験にトラ化しました。遺跡の中に立ち、土器に触れながら探検隊員のみなさんは、大昔の世界へタイムスリップしていきました。

タイムスリップ探検隊の一日発掘体験

夏の日差しの中で、結団式から始まったタイムスリップ探検隊。
暑かったけれども、歓声・感激・感動の声があがりました。

大きな土器が
見つかったよ。

結団式での自己紹介 発掘体験スタート



ハジメテのみんなの
前でよろしく！



一列に並んで、さあ、発掘をはじめます。
何がでてくるか。楽しみな瞬間です。



ちょっと一息。
テントの下で休けいです。



ベルトコンベアー
によっこいしょ！
慎重に



きれいになったかな。
何か、模様が見えてきたぞ。



拓本づくりは、土器の文
様を墨で写し取るもので、
みんながはじめての体験
でした。

「未来の考古学者」が続々と誕生！

県内の各遺跡や整理所の遺物に残された古代人のメッセージを少年・少女が純粋な眼で探りました。はじめは宝さがしの感覚で参加していましたが、発掘・整理作業を体験したり話を聞くにつれて、この仕事は「ど

うやらそんなに簡単なものではなさそうだ」と感じた子が多かったようです。わたしたちは、みなさんが文化財に興味関心をもち、いっそう理解を深めてもらえるよう、これからもお役に立ちたいと思っています。

Part 1

美濃市立立花小学校6年生のみなさんが同市内の深橋前遺跡で発掘を体験しました。



発掘の時間は朝から夕方まで続くなんでビックリ。ほくは10分でヘトヘトだよ。



機械のない時代に、こんな高いところへ石を運んで古墳を造るなんて考えられないよ。すごい勢力をもった人がいたんだなあ。

ほくたちの祖先は、どうして、こんな急な坂に家を建てたのだろう？

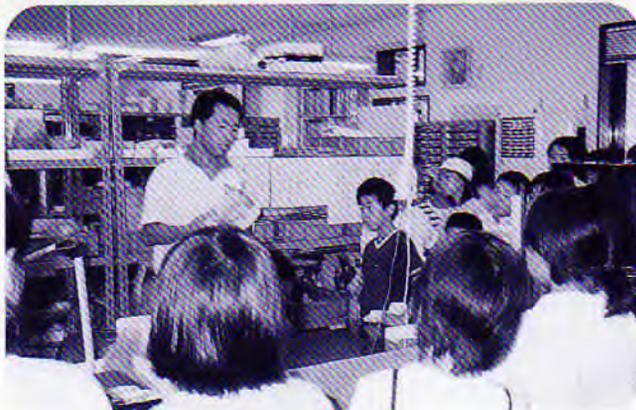


1800年も前の建物の柱のあとが、どうしてこんなにきれいに残っているのかしら？

Part 2

「マイタウンアドベンチャー」国府町商工会主催

国府町立国府小学校5・6年生(飛騨出張所)



Part 3

岐阜県博物館学芸員実習

県内大学生(深橋前遺跡)



Part 4 池田町立八幡小学校6年生のみな
さんが同町内の高畑遺跡を見学しました。

これは弥生土器だよ。
手にとってよくみてごらん。



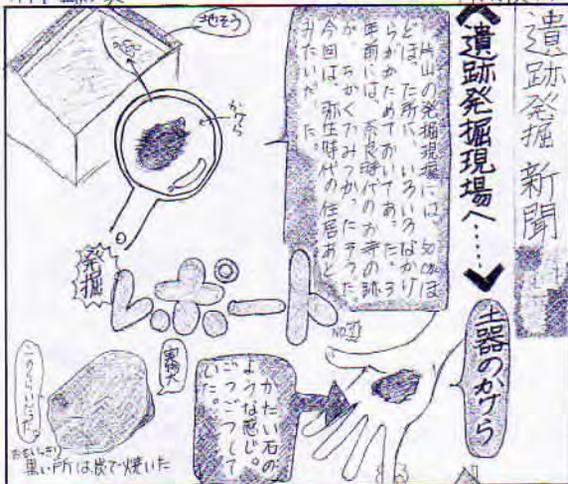
どれどれ…



見学のまとめの「遺跡発掘新聞」はカラーで紹介できないのが残念なくらいあざやかな作品となっています。

竹中 繭ツ実

Hi.6.11



Part 5 中学生職場体験

岐阜市立青山中学校2年生・岩野田中学校1年生、
中津川市立第二中学校2年生のみなさんが、三田
洞整理所にて遺物の整理作業を体験しました。



弥生土器

とてもたいへんな仕事だなあ。拓本は、墨をつけて
押さえると模様が浮き出てきて、とても楽しかったよ。



作業中はシーンとしていたけど、休けいの時間はみ
んな楽しそうにしゃべっていました。実測はおもしろ
いけど、毎日ちょっとできないなあ。



土器のかけらのひとつひとつにも記号や番号を書き
入れていました。私たちがいうと、持ち物にクラス名
や名前などを記入するようなことだけど、何万点に記
入するとなると気が遠くなりそうです。

発掘現場 だより



後平茶臼古墳

加茂郡富加町

東海環状自動車道(関～美濃加茂)建設

県道58号線(関～金山線)を北上し、富加町をぬけるあたりに後平茶臼古墳はあります。昨年度の試掘調査で埴輪片が出土し、本調査への期待が高まりました。

調査を開始してまもなく、予想通り埴輪片が数多く出土しました。円筒埴輪と呼ばれるものです。下の写真は、周溝の中へ転落した状態で出土した埴輪片の

様子です。ほぼ完全な形に復原できそうです。当時の古墳はこのような埴輪によって飾られていたことが想像できます。

また、遺体を納めた主体部の様子もわかってきました。下の写真のようにチャートと呼ばれる石を積んで石室が造られていました。石室の中からは、めずらしい馬具が出土しています。

※周溝…古墳の周りをめぐる溝
※復原…破片を接合し、元の形にすること



▲周溝から出土した埴輪片



▲石室の様子

高畑遺跡の調査は、今回が2度目になります。平成7年度の調査では、寺院に関連する遺構や遺物(大量の瓦など)が確認され、これまで知られていなかった古代寺院が発見されたと話題になりました。

今回の調査でも、同じ時代のものと思われる大きな柱穴跡や回廊跡などを確認することができました。瓦

や須恵器など8世紀頃の遺物も出土しています。残念ながら、寺院の中心となる建物(塔跡・金堂跡など)を確認することはできませんでした。調査区(道路)の周辺にあるのではないかと考えられます。

その他に、弥生時代の土器が固まって出土した土器だまりや中世の柱穴なども確認することができました。



▲柱穴や回廊跡



▲作業の様子

高畑遺跡

揖斐郡池田町

主要地方道岐阜関ヶ原線道路改良

深橋前遺跡

関市下有知

関テクノハイランド 開発事業

深橋前遺跡は、関市役所の北部に広がる低い丘陵上に立地しています。

現在までの調査で、弥生時代終わりから古墳時代初め頃の竪穴住居跡を、20数軒確認しました。この中で、日当たりが良く見晴らしも良い尾根の頂上部の平坦地からは、竪穴住居跡が10数軒集中して発見されました。これらの中には、下の写真に



▲竪穴住居跡

見られるように、住居の規模が比較的大きく、多くの土師器が出土しているものもあります。この場所が、集落の中心的な場所だったのでしょう。

また、普通では考えられないほど急な斜面からも住居跡がたくさん発見されました。どうしてこのような場所で生活が営まれていたのかははっきりしません。山の資源が取りやすく、丘陵の端に広がる湿地を避けたためかもしれません。

調査はもう少し続きます。弥生時代終わりから古墳時代初め頃の、この地域の人々の生活の様子が、少しずつ明らかになっていくと思います。



▲土師器出土の様子

太江遺跡の発掘調査は、平成10年度から行っています。かつて白鳳時代(7世紀終わり頃)の瓦が発見されているため、「このあたりに古代寺院跡があるのではないか」と考えられてきました。昨年度の発掘では、寺院の跡を確認することはできませんでした。しかし、

7～8世紀ごろの竪穴住居跡や須恵器・土師器・平瓦・丸瓦・軒丸瓦が見つかっており、近くに古代寺院跡がある可能性は、



◀鴟尾

▲瓦出土の様子

いっそう高くなっていました。

今年度の発掘では、一ヶ所から瓦などのたくさんの遺物が出土しました。中には、鴟尾(シャチホコのように大屋根の端につける瓦)の破片もいくつかありました。発掘が進み、破片がたくさん集まれば、もとの形を復原できるかもしれません。

また、その近くには、根石のある穴(礎石を置き柱を立てた穴)が並んでいるようです。穴が規則正しく並べば、古代寺院が建っていたという考えを裏付けることとなります。

これまでの発掘調査では、「7世紀後半から8世紀にかけて、鴟尾をのせた瓦屋根の建物(=寺院)があった」ということが言えそうです。

主要地方道神岡河合線 道路改良

太江遺跡(仮称)

吉城郡古川町

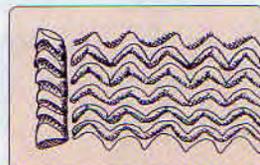
インフォメーション 現場説明会のご案内

11月6日(土)太江遺跡・12月4日(土)後平茶臼古墳・深橋前遺跡・12月11日(土)柿田遺跡 ぜひご参観下さい。



とが そこ なぞ 尖った底の謎

にしだ にゅうかわ じょうもん そうき
西田遺跡（大野郡丹生川村）出土 縄文時代早期の土器群



西田遺跡からは、縄文時代早期（8000年前～6000年前）の押型文土器が出土しています。この土器は、底の部分が尖っているのが特徴です。けれども、底の尖った土器は不安定なため、地面や住居の床に置くことはできません。それでは、どうしてこのような土器をつくったのでしょうか。この疑問の答えを出すための実験が行われました。平底の土器と尖った底の土器に、それぞれ同じ量の水を入れて熱したところ、尖った底の方が早く沸騰したのです。底を尖らせることによって熱効率をよくし、ものを煮炊きしやすくする目的が隠されていたのです。この土器は石などで支え、加熱されたのでしょうか。

西田遺跡の押型文土器の中にも、上半分だけに煤が付き、下半分にはまったく付かない



ものがみられます。これは、下半分に炎があたって加熱されたことを示すものです。

発見された遺物には、当時の人々の暮らしを探る上でヒントとなる数多くの暗号が残されているといえます。



発掘速報展のご案内

（財）岐阜県文化財保護センター主催の発掘速報展「いにしへの美濃と飛騨」を以下の要領で開催します。皆様のお越しをお待ちしております。

【期 間】 平成12年2月16日（水）～3月5日（日）

【場 所】 岐阜県博物館

岐阜県関市小屋名小洞1989

【内 容】 ○平成10年度の発掘現場から出土した遺物

○講演会 平成12年2月20日（日）

南山大学教授 伊藤秋男先生
「鏡にみる美濃の古墳時代」

会場：岐阜県博物館ハイビジョンホール



編集後記

7月10日に美濃加茂市で開催しました岐阜県発掘調査報告会では、県内5ヶ所の遺跡の発掘調査報告が行われ、200名ほどの皆さんが熱心に聞かれました。

また、本号で紹介しましたが、8月5日、可児市柿田遺跡でのタイムスリップ探検隊には、県内各地から小学生が保護者の方共々参加し、額に汗して発掘体験をしました。

埋蔵文化財に対する県民の皆さんの興味や関心が、大変高まってきていることが、これらの例からもわかります。

当センターでは、こうした期待に応え、今後一層、発掘調査に関する情報を発信していきたくと考えています。